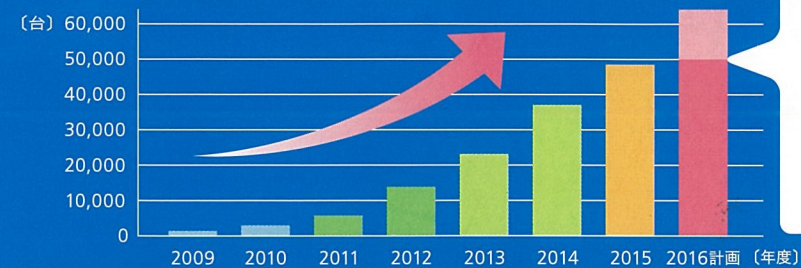


50,000台を実感！ 数字で見る エネファームガイド

2016年5月、大阪ガスの家庭用燃料電池「エネファーム」が、累計販売台数50,000台※1を突破しました。いま、関西でもマイホーム発電が広がっています。「エネファーム」は、天然ガスから取り出した水素をつかって、自宅で発電。発電時に発生した熱を利用してお湯をつくる経済性、環境性に優れたコージェネレーションシステムです。でも、「50,000台のすごさ」は、簡単には実感いただけず。そこで、身近なモノや場所とくらべてみてください。きっと、そのすごさが実感いただけます。

大阪ガスの「エネファーム」累計販売台数の推移（イメージ）



ENE FARM 累計5万台突破！

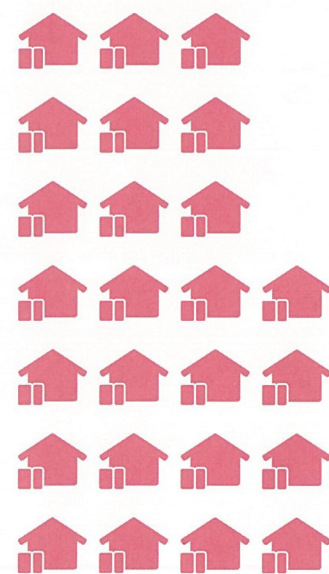
2016年5月 累計販売台数 50,000台※1突破！

くらべて実感！ 50,000台って、こんなにスゴイ！

2016年5月、大阪ガスの家庭用燃料電池コージェネレーションシステム「エネファーム」が、累計販売台数50,000台※1を突破しました。

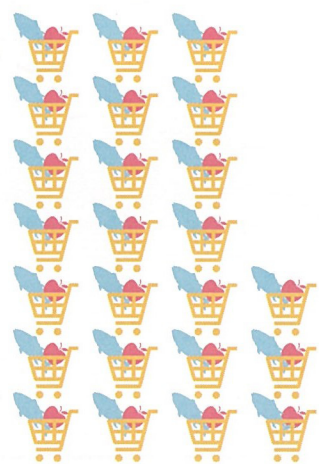
累計販売台数

50,000台※1



エネファーム

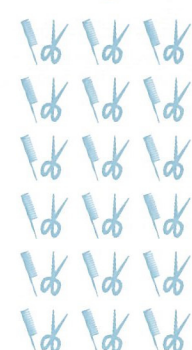
49,471店※2



食品スーパー、コンビニなど
飲食物品小売店

関西（近畿2府4県）にある
いろんなモノの数とくらべてみよう！

36,346店※3



美容室

12,940箇所※4



公園

8,995店※5



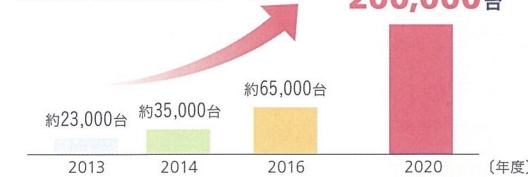
薬局

2020年200,000台普及を目指して

2014年4月に経済産業省から発表された「エネルギー基本計画」で、2020年には140万台、2030年には530万台の定置用燃料電池の導入を目標とすることが定められています。

大阪ガスでは、現在、2020年に累計200,000台の「エネファーム」の普及を目指して、設置性・利便性の向上とコストダウンを実現する技術開発に取り組んでいます。

累計販売台数目標（イメージ）



50,000台でどれだけ 購入電力量が減らせるの？

50,000台の「エネファーム」なら、年間約1.96億kWh※6も購入電力量を削減できます。

省エネ家電と比較すると・・・



50,000台でホントに 環境に貢献できるの？

50,000台の「エネファーム」なら、年間に74,000t-CO₂※8もCO₂の排出を削減できます。

杉の木の植林と比較すると・・・



1台なら？

新発売のエネファームtype Sなら、1台で年間約1.9t-CO₂※8のCO₂排出を削減。そのCO₂排出削減効果は、年間約140本の杉の木の植林に相当！



※1 大阪ガス受注ベース ※2 出典：総務省統計局「社会生活統計指標—都道府県の指標—2016」（II基礎データ／表番号H／居住／飲食物品小売店数／平成23年）を加工して作成 ※3 出典：厚生労働省「平成26年度衛生行政報告例の概況」（統計表8(4-3)）を加工して作成 ※4 出典：国土交通省「都道府県別の都市公園等の箇所数の推移」（平成13年度末～26年度末）を加工して作成 ※5 出典：厚生労働省「厚生統計要覧（平成27年度）」（第2編 保健衛生／第4章 薬事／第2-84表）を加工して作成 ※6 大阪ガス調べ。「エネファームtype S」（192-AS05型、AS06型）を設置した際にお申し込みいただける「余剰電力買取」を適用した場合の発電量を含む。 ※7 出典：経済産業省資源エネルギー庁「家庭の省エネ徹底ガイド春夏秋冬」（P16）を元に大阪ガスにて算出 ※8 従来システムの「ガス給湯暖房機」を「エネファーム」、または「エネファームtype S」に変えた場合の大阪ガス試算値（戸建住宅4人家族想定） ※9 関西空港の面積／出典：新関西国際空港株式会社ホームページ「数字で見る関西空港」（<http://www.nkiac.co.jp/data/>）。杉の木（50年杉）のCO₂吸収量：13.9kg-CO₂/本・年／出典：「林業白書」（1997年より）。杉1本あたりの専有面積約12m²/本／出典：環境省／林野庁「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」を元に大阪ガスにて算出 ※ 各試算条件は大阪ガスホームページでご確認ください（http://home.osakagas.co.jp/search_buy/enefarm/requirement.html）

エネファームについての
お問い合わせは

商品についてのお問い合わせは
グッドライフ
コール
0120-000-555

フリーダイヤル
0120 000-555
【受付時間】 月～土 8:00～21:00 日 9:00～21:00